

みんな、知ってる？

特攻隊員 さんのこと



知覧基地などから飛び立ち、
空へ、海へと命を散らした
多くの若者たちがいました。
加古川飛行場は、知覧基地
への経由地の一つでした。

兵庫県

加古川市

尾上

鹿児島県

南九州市

知覧

尾翼に「カコ川」と書
かれた戦闘機



特攻隊員とは、第2次世界大戦末期、飛行機に乗ったまま敵の艦船などに体当たり攻撃をするよう訓練された若い兵士のことです。そんなことをすれば「必ず死ぬ」ということを知りながら、彼らは覚悟を決めて飛び立っていったのです。

多くの尊く若い命が空へ、海へと散ってゆきました。ある者は日本の勝利を信じて。ある者は家族の幸せを願いながら。

知覧特攻平和会館（南九州市）初代館長である板津忠正さんも特攻隊員でした。加古川飛行場を経由して知覧基地へ飛び、そこから出撃しました。機体が故障して島に不時着し生還されましたが、「生き残ってしまった」という耐えきれない重荷を負いながら終戦を迎えられたそうです。

会館には、戦後、板津さんが長い年月と労力をかけて集めた特攻隊員の遺影をはじめ、遺書や絶筆など数多くの品が展示されています。

私たちにできることはなんでしょうか。
この悲劇を二度と繰り返さないために。

別れの儀式をする陸軍特別攻撃隊「第76振武隊」



写真：「加古川飛行場を記録する会」上谷昭夫氏提供